

予防接種の前に必ずお読みください**子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス・2価）の接種について****1. ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の症状について**

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微小なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のもは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因となることが分かっています。

2. 子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）について**①ワクチン接種の効果**

子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）は、多くの種類があるHPVのうち、子宮頸がんから多く見つける2種類（16型・18型）のHPVの感染を予防することができます。しかしながら、この2種類以外の型のHPVの感染は予防できません。また、ワクチン接種時に既に感染しているHPVを排除したり、発症している子宮頸がん等を治療することはできません。

また、このワクチンは、3回接種することにより十分な予防効果が得られるため、きちんと最後まで接種することが重要です。日本で認可されている子宮頸がん予防ワクチンは3種類ありますが、途中で他のワクチンに変更することは、有効性・安全性のデータがありませんので、必ず同じ種類のワクチンを3回接種してください。ただし、2価または4価HPVワクチンを用いて既定の回数の一部を完了している場合に限り、医師と相談の上、途中から9価HPVワクチンに変更し、残りの接種を完了することも可能です。

ワクチンを接種しても、全ての子宮頸がんを予防できないので、子宮頸がん検診は必要となります。岬町では、20歳以上の方を対象とした子宮頸がん検診を実施しています。子宮頸がんを早期に発見するためにも、定期的に子宮頸がん検診を受診しましょう。

②副反応

ワクチン接種後に、注射部位に限局しない激しい疼痛（筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み等）、しびれ・脱力等があらわれ、長期間症状が持続する例が報告されているため、異常が認められた場合には、神経学的・免疫学的な鑑別診断を含めた適切な診療が可能な専門医療機関で診てもらえるよう、すぐに医師に相談してください。

主な副反応は、発熱や、局所反応（注射部位の痛み・赤み・腫れ）です。また血管迷走神経反射といって注射による痛みや心因性の反応などによる失神（気を失う）することがあります。まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、呼吸困難、じんましんなど）、ギラン・バレー症候群（下から上に向う両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻血、口腔粘膜の出血等、月経出血の増加など）、リンパ節症、急性散在性脳脊髄炎（ADEM＜まひ、知覚障害、運動障害など＞）があらわれることがあります。このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

3. ワクチンの接種について

子宮頸がん予防ワクチンの予防接種（平成25年4月1日より定期接種となる）は、平成25年6月14日から、積極的勧奨は差し控えておりましたが、令和3年11月27日より接種勧奨の再開となりました。接種時は、ワクチン接種の有効性及び安全性等について説明を受けて理解した上での接種をお願い致します。法律に基づいて実施していますので、対象年齢を過ぎると、任意接種（有料）になります。接種対象者は小学6年生から高校1年生相当の女子ですが、標準的な接種対象者である中学1年生相当の女子に、接種をお勧めしています。

保護者が同伴をしない場合は、事前に予診票にある「保護者を同伴しない場合」欄に必要事項を記入し、同意した場合に限り接種することができます。

ちに紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律など、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※ 詳しくは、岬町立保健センターまでお問い合わせください。

.....
【問い合わせ先】 岬町立保健センター
電話：072-492-2424 FAX：072-492-2433
.....